

News Release

2017年10月25日
 株式会社野村総合研究所

IT 運用管理ソリューション「Senju Family 2018」を提供開始
 ～ AI 活用による自律型運用支援、マルチクラウド管理機能を強化～

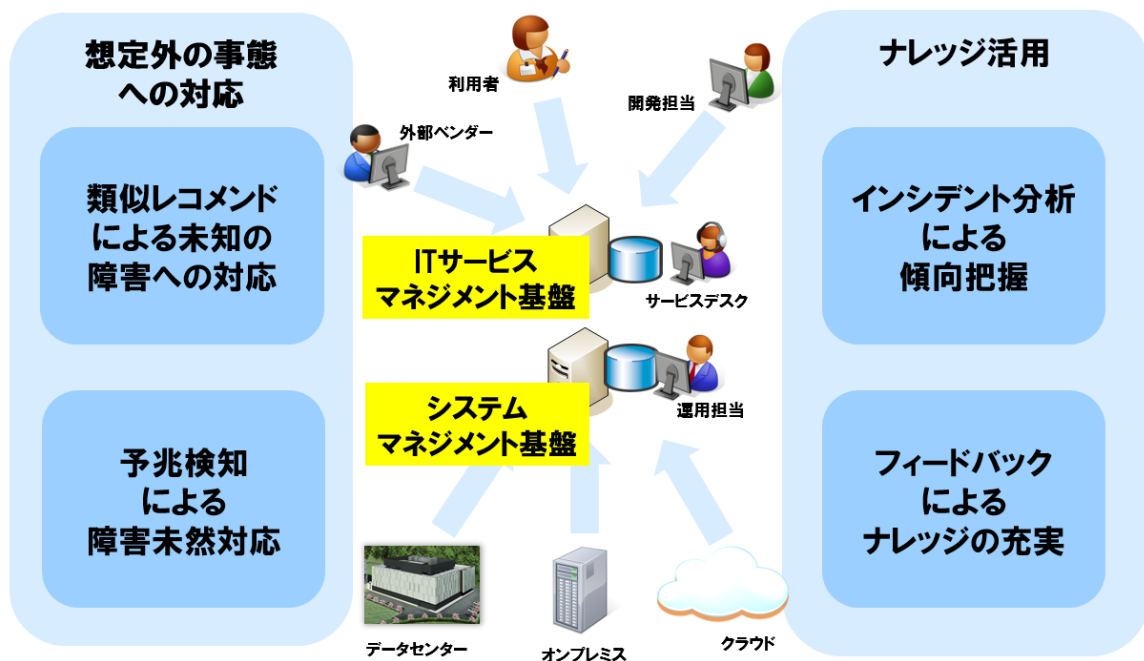
株式会社野村総合研究所（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：此本 臣吾、以下「NRI」）は、IT 運用管理ソリューション「Senju Family（センジュ・ファミリー）」の最新版「Senju Family 2018」の提供を2017年12月から開始します。今回は、AIを活用した新製品を加えたことと、マルチクラウド環境の一元管理ができる機能を追加したことが特長です。

■ AI を活用した新製品「Senju Autonomous Service Manager（Senju/ASM）」

「Senju Family」には、システムからの異常メッセージや稼動履歴に加え、利用者からの要求と運用担当者の対応履歴、外部ベンダーへの依頼状況等、様々な情報が集まります。

新製品「Senju/ASM」では、これらの膨大な情報（ナレッジ）を活用し、特徴的な単語の一致度や前後イベントとの相関分析による自律的なレコメンド機能などを搭載しました。これにより、システム障害の予兆検知やナレッジの有効活用が期待でき、システム利用者の視点に立った「IT サービスマネジメント」を強化できます（図1）。

図1：「Senju/ASM」の特徴



■ マルチクラウド環境を一元管理する「Senju Performance Visualizer (Senju/PV)」機能

企業において、クラウドの本格導入が進むにしたいが、既存のオンプレミス環境と新規のクラウド環境が混在したシステムの運用効率化を、どのように図るかが課題となっています。クラウドとオンプレミス双方のメリットを最大化するためには、個々のシステムのサービス価値・品質・コスト・セキュリティなどの状況を、全体で一元管理する必要があります。

そこで、既存のオンプレミス環境とクラウドをシームレスに可視化する新機能「Senju Performance Visualizer」を追加しました。本機能を用いることで、個別システムのサービス価値や品質といったカテゴリごとの状況を、グラフで表します（図2）。

また、「Senju/DC」の「マルチクラウド管理」機能を合わせて利用することで、オンプレミスに加え、Amazon Web Services、Microsoft Azure、Google Cloud Platform などのパブリッククラウド環境での状況も可視化され、一元管理できます。

図2：「Senju/PV」の画面イメージ



これらの新製品と新機能は、NRIが「Senju Family」をベースに構築した、運用基盤クラウドサービス「mPLAT」においても提供します。「mPLAT」では、Amazon Web Services および Microsoft Azure の管理機能を強化しています。

「Senju Family 2018」の発表セミナーを、11月21日に東京で、また11月29日には大阪で、それぞれ開催します。詳細については、以下のウェブサイトをご参照ください。

<http://senjufamily.nri.co.jp/>

【ニュースリリースに関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所 コーポレートコミュニケーション部 松本、日下部

TEL : 03-5877-7100 E-mail : kouhou@nri.co.jp

【ソリューションに関するお問い合わせ】

株式会社野村総合研究所 Senju インフォメーションセンター

TEL : 0120-736-580 E-mail : senjuinfo@nri.co.jp URL : http://senjufamily.nri.co.jp/

【ご参考】

●「Senju Family 2018」の製品ラインナップ



: Senju Family 2018で追加された機能

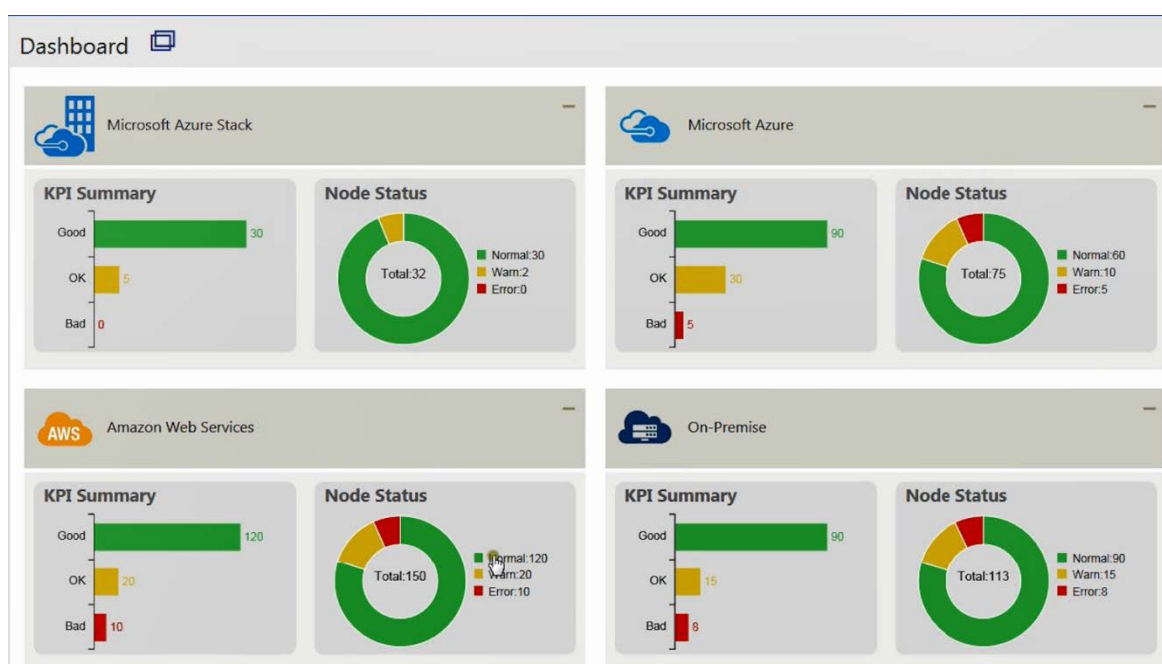
●「Senju/ASM」のナレッジレコメンド画面イメージ

The screenshot shows the Senju/ASM knowledge recommendation interface. A sidebar on the left contains navigation options like 'イベント可視化Viewer', 'プロセス管理', 'ナレッジ手動検索', 'ユーザー管理', '画面管理', 'メニュー', 'ラベル', 'システム管理', and '権限管理'. The main content area is divided into two sections:

- 診断ナレッジレコメンド (Diagnostic Knowledge Recommendation):** A table titled 'レコメンド一覧' (Recommendation List) with columns: No, スコア (Score), キー (Key), タイトル (Title), 役に立った回数 (Helpful times), and 利用回数 (Usage times).

No	スコア	キー	タイトル	役に立った回数	利用回数	
1	15.0	T_PD0081	T_【診断】【PD0081】OracleVM向けAPI発行失敗	0	1	選択
2	15.0	T_ZZ0303	T_【ZZ0303】対応ナレッジ後処理	0	0	選択
- ナレッジ利用情報 (Knowledge Usage Information):** A section for incident diagnosis with fields for 'インシデント診断対象ノード' (Incident diagnosis target node) and 'ワークフロー対応者' (Workflow responder). It includes a 'レコメンドされた対応手順をナビゲーション調査コマンドの指示や自動復旧を実行' (Execute navigation investigation command instructions or automatic recovery for recommended response procedures) button. Below is a flowchart showing a process flow from '初期設定' (Initial setup) through a decision point to a task box '【共通】単純処理' (Common simple processing), then to another decision point, and finally to a task box '【CD0074】OracleVM向けAPIエラー再発行 管理改善' (OracleVM API error re-issuance management improvement).

●「Senju/DC」の「マルチクラウド管理」画面イメージ



Amazon Web Services は、Amazon Web Services, Inc.が提供するクラウドサービスです。
 Microsoft Azure は、Microsoft Corporation が提供するクラウドサービスです。
 Google Cloud Platform は、Google Inc.が提供するクラウドサービスです。
 文中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。